



栄養士薬膳研究会の発展を願って ー平成23年度総会からー

東京栄養士薬膳研究会 代表 海老原 英子

東日本大震災及び福島原子力発電所事故の発生から3か月が過ぎました。復興には程遠い現実を知るにつけ、災害の大きさと政治指導の無力を痛感します。と同時に今私たちに何ができるか、何をなすべきかが問われているようにも思われます。会員の皆さまからお預かりしました義援金35万円は適切に被害地にお届けいたします。被害地の皆さまが一日も早く日常の生活が取り戻せるようお祈り申し上げます。

去る5月22日、平成23年度の総会を無事終了し、皆さまのご承認をえて新年度の活動が開始されました。現在9年目を迎え、会員数も260名に増加し、10教室で講習会が開催されています。今まで会員のニーズに応えるため多様な活動を実施してきましたが、今年度から会員の方々により分かり易くするために部制を導入し、部の責任者が活動内容をしっかりとお伝えする仕組みにいたしました。

まず、総務部は、本会全体の事務的な仕事になりますが、昨年度から実施されました「中医薬膳専門栄養士」認定証の審査と発行を行います。また、「国際薬膳師」資格取得のためのセミナーの開催もしています。

事業部は、都民のための健康づくり特別講演会の企画・運営をします。今年で5回目を迎えますが、講師の先生は著名な方々で毎回参加者の健康意識を高めて、講演会の趣旨・目的を達成してください。私ども栄養士の活動が社会的な評価を受け、少しでも地位の向上に繋がることを願っています。

研修部は、会員の知識と技術の向上を図ることを念頭にいろいろな研修会を実施しています。今年度は中醫師で漢方相談など幅広い活躍をされている邱紅梅先生から「各臓腑の生理と養生」について7回シリーズで研修を受けていますが、大変評判が

よく100名近い人が受講しています。また、研究科では関口善太先生の「経絡」の講座を受けています。できるだけ会員の要望にお応えする研修会を実施したいと考えていますが、会場を確保するのに苦労しています。皆さまのご協力をお願いいたします。

広報部は、会報「山楂子」を年間4回発行しています。会報は本会の顔としてより多くの役割を果たしてほしいと考えています。フリーマーケットのような自由な情報交換の広場となり多くの読者の声が寄せられ、お互いに切磋琢磨することを楽しみ、親睦の輪が広がって本会の活性化に繋がるよう期待しています。

今年度の大きな課題はホームページの充実であります。一般の人向けには栄養の知識に加え、薬膳の考え方をういた食事健康づくりに役立たせていただくため、魅力のある薬膳を紹介いたします。また、会員対象には会の運営方針や中医学・薬膳学など知識の向上、薬膳料理の紹介など薬膳の専門家として必要な新しい情報の提供をしたいと考えています。将来的には全国の薬膳を学びたい栄養士のために通信教育の導入も計画しています。その他に講師養成講座を開催しています。来年度にむけて教科書作成に30名ほどの研究科の方が多くの資料を収集し検討を加えています。

以上、本年度の活動内容について報告しましたが、このような現在の発展は会員の方々のご支持と役員の方々のボランティア精神によって支えられてきました。

本会の目標は、栄養士による中医薬膳を導入した健康・栄養活動が社会から評価され存在感を増し貢献することにあります。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。